

## 平成 24 年度第 3 回経営会議 議事概要

1 開催日時 平成 25 年 3 月 26 日（火） 12：20～15：00

2 場 所 本部棟 3 階 大会議室

### 3 出席者

学外委員：箱崎委員、高橋委員、山本委員、内川委員、阿部委員、田鎖委員 計 6 名

学内委員：相澤委員、中村委員、瀬川委員、佐々木委員 計 4 名

（事務局）鈴木室長、寺本室長、宮野室長

企画室：高橋課長、菊池課長、藤原主幹、藤村主幹

### 4 会議の概要

#### (1) 審議事項

- ① 平成 25 年度計画（案）について
- ② 平成 25 年度予算（案）について
- ③ 社会福祉学部の学科見直しについて

#### (2) 説明資料

- ① 平成 25 年度計画（案）について（資料No.1-1～1-2） 説明者：佐々木委員
- ② 平成 25 年度予算（案）について（資料No.2-1～2-3） 説明者：瀬川委員
- ③ 平成 25 年度計画・予算の主要事項について（資料No.3-1～3-7）  
説明者：佐々木委員、瀬川委員、鈴木室長
- ④ 大学改革実行プランについて（資料No.4） 説明者：佐々木委員
- ⑤ 社会福祉学部の学科見直しについて（資料No.5） 説明者：佐々木委員
- ⑥ 参考資料（資料No.6-1～6-5） 説明者：佐々木委員、瀬川委員、相澤委員

相澤委員の進行により会議が進められた。

上記（1）審議事項①～③について、大学側から（2）説明資料①～⑤及び参考資料⑥に基づき一括して説明があり、以下のとおり、質疑応答・意見交換等を行なった。

審議の結果、審議事項①～③については、原案のとおり了承された。

#### <主な質疑・意見等>

- ・ 復興支援活動は全国的に報道され、地域からも評価を受けている。キャンパスを元気にしたいとする学長の想いが学内に浸透してきた。復興支援が遅れ、マンパワー不足が起きている現状において、中期計画に掲げる産学連携、シンクタンクという取組は被災地に必要とされている。25 年度にも大いに期待したい。

北海道・東北地域の銀行業界では、地元雇用を働きかけている。地域の活性化にあたって、学生を社会に送り出す際に様々なものを持たせることは重要である。

教養教育では、教員向けに何か特別な指導を行う予定であるか。【学外委員】

- ・ 本学の復興支援は、地域政策研究センターを中心に実施しており、本学では初めて全学的な成果発表会を開催する。学内外に広く開催を周知したい。

学生が岩手県のことを知っているか疑問であり、基盤教育を実施し、座学以外にもフィールドに出て行けるよう、岩手県のために何ができるか考えてもらいたい。

教員の教育方法については、高等教育推進センターにおいて学生に自主的に学ばせる方法等を議論してもらおう。【学内委員】
- ・ 県内就職を促進していくが、地域というものを広く捉えると日本自体も地域である。語学教育も含め、フィールドの一つとして岩手県内の施設や企業を知らせたいし、中国や韓国の交流も広げたい。学生は、親からの影響が大きいが、もっと視野を広げられるようにさせたい。【学内委員】
- ・ 大学入試センター試験では、大船渡高校の試験会場について率先して対応いただき、県高校長協会を代表して感謝申し上げる。今後も5～6年のスパンで継続していただくようお願いしたい。

高校教員向けの「岩手県立大学の手引き」は大変好評であり、貴重である。社会福祉学部の学科再編についても、その方向性について加えていただきたい。

就職内定率の推移を見ると、2月末段階では落ち込んでいるように見えたが、これは傾向を問題視しなければならないのか。【学外委員】
- ・ 昨年度は、盛岡短期大学部が98%となるなど高い実績であった。今年度もまだ伸びる余地はある。【事務局】
- ・ 学生アンケートにあるように、自学自習の時間は全国的にも低い。学生を成績順に4つの層に分けると、上位層はあまり変化がないが、中間層は最近10年で学力、学習時間が大きく低下している。1単位を取るために要する学習時間があるはずであり、その指導をお願いしたい。【学外委員】
- ・ 高大連携は中学校までを視野に入れて行いたい。また、学習時間については、予習・復習を含めた単位履修であることを徹底させたい。【学内委員】
- ・ 今後は人間形成が重要であり、本学の取組もその方向性に沿ったものであり、期待したい。社会福祉学部の学科再編については、人間福祉学科の進路が幅広く、それぞれ違う分野に就職するようになるが、どのように教育していくのか。

任期付職員の処遇について、このような職員は全体でどれくらいおり、どの辺を担っているのか。任期付職員の雇用は義務なのか。若い人は任期が切れた後はどうなるのか。

復興支援の発表会は重要であり、支援活動は長く継続させてほしい。当初の支援内容とは、将来違うものが求められる。【学外委員】
- ・ 社会福祉学部では、学科の中に「系」というものを置き、それぞれ重点化する分野を設定する。【学内委員】
- ・ 事務局職員については、県直営からプロパーへのシフトを進めている。任期付職員を少しずつ増やし、問題がなければ終身雇用に切り替えていく。この背景には、労働者派遣法の改正もあるが、処遇面の問題から男子が就職しにくいことや、専門性の高まりといった事情もある。現在は県職員が管理職などを占めるが、法人採用でもミドル職に就けるよう

にしていきたい。【学内委員】

- ・ 復興支援活動を通じて、「常時」というものを大事にするべきである。非常時をいかに早く常時に戻すか、そのことを考えておくべきである。

地域力は日本を形付けるものである。地域が主体性を持ってその視点を助長していくべきである。

高等教育推進センターの基本方針については仰せのとおりであり、知力が求められている。大学の本来のあり方として、徳力、人間力に視点を置くことは大事である。知力が知恵に変化する時、社会人として戦力となる。大学では基礎的な知力を身につけさせてほしい。

情報システムは全部外注するのか。本学にはソフトウェア情報学部があるのだから活用してはどうか。

学生アンケートで正課以外で英語に取り組むのが 20%とあるが、これでは低い。また、食堂の改善について要望があるというのはしっかり対応すべきである。

なお、前年度の就職率が高かったという言い方は間違いで、本来 100%であることが当然である。【学外委員】

- ・ 情報システムについては、ソフトウェア情報学部の教員にも入ってもらい、ICSと共同してシステムを作っている。教員に、自分たちのシステムであることの自覚を持たせるためでもある。【学外委員】

- ・ 最初に大きなシステムを作りすぎたことを改めるため、ソフトウェア情報学部にも協力を求めている。

語学力の養成は重要と考えており、欧米圏にも積極的に交流できるようにしたい。E-learning も導入していく。【学内委員】

- ・ 食堂の満足度は、ソフトウェア情報学部などの男子学生は比較的低く、女子学生は高いという傾向がある。【事務局】

- ・ 大学側と意見交換をするたびに、県立大学とはどういう存在なのかを考えている。地域、グローバル、話題性など。県大には、地域との繋がりを大事にし、震災研究では目立ってアピールしてほしい。

震災復興のアーカイブスについて、現在のところ文化として伝えることをどこも行っていない。記録物を後世に残すべきであり、国立の資料館を建設すべきと考える。大学として数年先の目線を持ちながら、その役割を担うべきではないか。

ILC誘致により、周辺地域は国際都市になり得る。その場合の県大の役割、立ち位置、人材教育はどうなっているか、情熱を持って取り組んでほしい。【阿部委員】

- ・ アーカイブスやILCについては関心を持っているが、本学では専門の教員がいない中でどのように関与していくか、東大や東北大などどのように連携すべきかなどが検討課題である。【学内委員】

- ・ いわて高等教育コンソーシアムのシンポジウムでも、散逸した資料をどのようにして集めるかが議論された。2年経過してだいぶ散逸した。どこかが核となり強力な形で作るべ

きである。【学内委員】

- アーカイブスから新たな知恵も生まれる可能性がある。【学内委員】
- 宮古市では委員会を作り、独自のアーカイブスを作っている。昭和8年の大津波については、記録がなく、防潮堤を作った意義がわからない状態である。今回の震災については、きちんと把握しておくべきである。【学外委員】
  
- 大学改革プランは、数年と言わず、すぐにでもやるべきものである。何のための勉強であるか。県立大学の位置づけを明確にして、岩手県の大学改革プランを作るべきである。小学校から作り上げるべきであって、大学だけというのには違和感がある。  
また、PDCAという場合のCとは何を基準とするのか。目標、目的をしっかりと作っておき、やった実績で良しとしたり、前よりは良いというようなものではない。  
勉強については、目的と手段を間違えないこと。県税を納める立場からすれば、そこを弁えてほしい。【学外委員】
- 学生には岩手をもっと知ってもらい、岩手で仕事をしたいという学生を増やすことが重要である。高等教育推進センターが、他大学のモデルになればよいと考えている。  
また、本学には語学教員が多く在籍していることから、将来的に、県大が岩手の語学センター的な機能を担い、推進役になればよいと考えている。【学外委員】
  
- その他、経営会議の進行について、長時間一方的に資料の説明を行う方法を改め、プレゼンテーションの工夫を行ってほしい、との意見があった。